

◁年会・合同シンポ報告▷

第15回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム報告

実行委員長 尾嶋正治 (東京大学大学院工学系研究科)

今回で15回目を迎えた日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムは、2002年1月11日から13日までの3日間、東京大学物性研究所および隣接する東葛テクノプラザで開催され、大変盛況のうちに幕を閉じた。参加者は556名と過去最高で、また発表件数も330件と昨年の合同シンポジウム(広島大学で開催)の357件に次いで多くの発表があり、基本的には右肩上がりが増えていた。放射光学会は1988年に第1回年会を開催して以来、毎年5月に開催してきたが、1995年に年会と各放射光施設のシンポジウムを一緒にした合同シンポジウムを第8回として実施して以来、毎年1月に開催している。まだ門松も取れない1月7日から開催した時には「いくら何でも早すぎるよ」などと言われたが、この年会・合同シンポジウムは毎年の学会の先陣を切るもので、おめでたい(?)催しとなっている。企業展示の方からは「新年の挨拶が一挙に出来てしまうので、助かりますよ」と言われている。

今年は物性研 SOR 施設と Super-SOR 利用者懇談会がお世話することになり、会長を務めている尾嶋が実行委員長を、前会長の藤森淳氏(東大新領域)がプログラム委員長を務めた。なお、組織委員長は物質構造科学研究所河田洋氏(放射光学会行事幹事)が務めた。

初日の1月11日には各利用者懇談会が主催する総会や拡大幹事会などがあり、放射光学会の総会も開催された。すなわち、Super-SOR 利用者懇談会総会、PF 懇談会拡大幹事会、UVSOR 利用者懇談会、SPring-8 利用者懇談会拡大幹事会、が開かれ、それに続いて放射光将来計画特別委員会報告会が開かれた。上坪委員長のもとで7回の特別委員会が開かれ、そこで議論してきた経過や今後の予定が報告された。また、放射光学会総会では、この1年の活動の報告と来年度方針が提案され、了承された。特に合同シンポジウムの見直しに関しては、かなり熱い議論が聞かれた。

本格的な合同シンポジウムは12日から始まった。会場は東葛テクノプラザで、209名収容のX会場と81名収容(付属椅子で100名可能)のY会場、それとZ会場で口頭発表を行った。今回の発表では若手のがんばりが目立ち、若手が育っているという実感を持った(写真1)。聴衆も熱心に参加しており(写真2)、学生に限った口頭発表賞は、投票の結果、横山佳行君(姫路工業大学)に決まった。またポスター発表賞は宮田洋明君(奈良先端大)と三島吉就君(広島大院理)に決まった。



写真1 口頭発表



写真2 口頭発表の会場



写真3 ポスター会場と企業展示会場(喫茶コーナー)

今回はポスター会場と隣り合わせにして企業展示を行った(写真3)。以前のシンポジウムで両者を別の部屋で開催したことがあり、お客さんがほとんど来なくて展示企業



写真4 特別講演中の
Z. X. Shen 教授



写真5 特別講演中の
福山所長



写真6 懇親会のシャンパン栓抜き（特別講演者二人，学会会長，実行委員長，プログラム委員長）

から大きな不満が出されたが，今回はおおむね満足してもらえた。河田行事幹事と事務局西野氏が展示39社すべてに個別聞き取りを行った結果，会場が狭いことやブースの配置に不公平があった点などが指摘されたが，ほとんどは来年も出展したいと喜んで頂けた。

企画講演は12日朝，13日朝に X, Y 会場で実施し，「ポストゲノム時代の X 線結晶構造解析」（宮野氏，若槻氏，月原氏），「時間・位置同時分解検出法の応用と将来」（大浦氏，斉藤氏，野村氏，田中氏），「放射光源における最先端技術」（中村氏，小林氏，熊谷氏，北村氏），そして「ナノテクノロジーへの放射光利用」（木下氏，久保氏，小野氏）という4つの企画枠で合計14件の講演が行われた。いずれも時機を得た興味深い企画で，放射光最前線のトピックスが報告された。

シンポジウムの目玉である特別講演は，米国スタンフォード大学 Z. X. Shen 教授（写真4）による「銅酸化物超伝導体の電子構造：放射光光電子分光の結果」と東大物性研所長福山秀敏教授（写真5）による「物質科学の夢と放射光への期待」の2件である。お二方は酸化物超伝導体の放射光実験面と理論面における世界の第1人者であり，超伝導体を含む強相関電子系のサイエンスとその展望を語ってもらうのにこれ以上の組み合わせはない。Shen 教授は高分解能の角度分解光電子分光を用いた Fermi 面マッピングで超伝導メカニズムにどこまで迫れるか，について膨大な実験データを示して講演された。一方，福山所長には光電子分光の先駆けである W. E. Spicer 教授（Shen 教授の師）の実績から始まり，酸化物超伝導体の放射光利用光電子分光，DNA の軟 X 線吸収スペクトル，DNA の伝導メカニズムへと繋がり，理論の立場から物質科学の夢を語って頂いた。物性研 6F 講堂（S 会場）はほぼ満員の聴衆が集まり，二人のすばらしい講演に酔いしれた。

特別講演の後で物性研食堂において懇親会が開かれた。224名の人が集まり，シャンパンの栓を開けて開始を告げた後（写真6），放射光学会太田会長の乾杯の音頭で歓談が始まった。今年の学会総会において初めて放射光学会名



写真7 名誉会員となられた高良先生，佐々木先生，冨家先生



写真8 第16回合同シンポジウム実行委員長鈴木氏の決意表明

誉会員が選ばれ，高良先生，佐々木先生，冨家先生（写真7）が表彰された。3先生のお元気な様子を見ることが出来，大変うれしい催しとなった。なお，今回は牛久シャトーから地ビールと特選ワインが準備され，一部の参加者は女性ソムリエとのワイン談義をエンジョイしていた。最後に，次回の開催地となった SPring-8 を代表して JASRI の鈴木芳生氏が決意表明を述べて（写真8）閉幕となった。

今回は，1) プログラムがバランス良く，面白い合同シンポジウムになったこと，2) 企業展示が好評であったこと，3) 懇親会が大変好評であったこと，と3拍子揃っており，成功であったと自負している。実行委員会，プログ

ラム委員会, 組織委員会, 放射光学会事務局, 物性研SOR施設の皆様にお礼を申し上げたい。しかし, 個別に見ると反省すべき点も多い。例えば, Y会場にはかなり多くの聴衆が集まり, 少し狭かった上に換気システムがよく判らないままかなり暑い会場になってしまい, 参加者からお叱りを受けた。また, 東葛テクノプラザの会場が入り組んでおり, どこにポスターや企業ブースがあるかなど判

りにくかったとの指摘も頂いた。そのような案内地図は毎年, 予稿集には載せていなかったが, 今回の東葛テクノプラザのような会場ではその点の配慮をすべきであったと反省している。これらを含めて, 2月5日の第4回実行委員会で議論して反省点と課題をまとめ, 次期の鈴木実行委員長に引き継ぎたいと考えている。ご協力, ありがとうございました。

◁年会・合同シンポ・学生賞▷

第15回放射光学会年会・合同シンポジウム 学生会員口頭発表賞・ポスター発表賞審査結果

プログラム委員長 藤森淳 (東京大学大学院新領域創成科学研究科)

前回の放射光学会年会で, 将来の放射光科学を担う学生会員を励ますことを目的として, 学生会員を対象とした口頭発表賞, ポスター発表賞が新設されましたが, 今回も引き続き投票を実施いたしました。審査方法としては, 学会参加者に各3名以内を投票して頂き, 最多得票者を表賞することとしました。集計の結果, 関連分野はもとより他分野の方からも多くの得票を得た下記のお三人に, 口頭発表賞とポスター発表賞を授与することとなりました。受賞者の方々の今後のご活躍を期待します。

口頭発表賞

受賞者 横山佳行氏 (イメージング 12Z9)

題目 位相ゾーンプレートをを用いた結像型硬X線顕微鏡の開発(2)

講演者 ○横山佳行¹, 新美敏弘¹, 高井健吾², 籠島靖¹, 津坂佳幸¹, 松井純爾¹

所属 ¹姫路工業大学, ²高輝度光科学研究センター

受賞者コメント

突然の受賞に大変驚きました。研究の成果を評価して頂きましたこと大変嬉しく, また光栄に思います。ご指導を頂きました先生方や一緒に研究に取り組んできました仲間のおかげと深く感謝しております。この賞を励みとして, 今後も新しい研究に取り組んで参る所存です。ありがとうございました。



ポスター発表賞

受賞者 宮田洋明氏 (VUV・SX 12P22)

題目 Cu表面及びNi薄膜の二次元角度分解光電子分光

発表者 ○宮田洋明¹, 松井文彦¹, O. Rader², 中村洋次郎¹, 中西康次³, 難波秀利³, 大門寛¹

所属 ¹奈良先端大物質創成, ²BESSY (Germany), ³立命館大理工

受賞者コメント

この度, 本学会の学生会員ポスター発表賞を頂けたことを大変嬉しく思います。今まで自分の専門と異なる分野の方々とも知り合えたことが, この放射光を通して得られた何よりの財産だと思っています。最後に, 共同研究者のみなさん並びに実験を行った立命館大学SRセンターの方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

